科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー ：公共政策論Ⅰ ILAS Seminar :Public Policy I			担当者所属 職名・氏名	人間・環境学研究科 教授 佐野 亘		
群	少人数群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・ 開講期	2025・前期	受講定員 (1回生定員)	10 (10) 人	配当学年	１回生	対象学生	全学向
曜時限	月5	教室	共西11			使用言語	日本語
キーワード	公共政策 / 行政 / 政治						

（総合人間学部の学生は，全学共通科目として履修登録できません。所属部局で履修登録してください。）

[授業の概要・目的]

具体的な政策課題を多面的に検討し議論することを通して、公共政策の分析とデザインのための理論および技法を修得することを目指す。本ゼミを通じて、受講者は、「社会問題を解決すること」の難しさを味わうとともに、論理的思考とプレゼンテーションの能力を高めることが望まれる。

[到達目標]

この授業を受講することで、プレゼンテーションやグループ作業の能力を高めることができるとともに、社会問題やその対応策について、どのように調査・研究をすすめればよいか、その基本的な知識を得ることができる。

[授業計画と内容]

なぜある社会問題が「問題」としてとりあげられるのか、またそうした問題を解決するうえで政府はいかなる役割を果たすべきであるのかについて、具体的な政策イシューを事例として、考察を深めることを目指す。公共的な問題を発見し適切に解決するのは決して容易でないことを実感として理解できるようになればと考えている。
参加する学生は、関心のある社会問題をとりあげ、その現状ならびに対策について調べたうえで、改善策を提案することを目指し、その研究発表を行う。また、参加者の間での討論と協働作業をとくに重視する。

受講者の数によるが、おおよそ、以下のようなスケジュールでおこなう予定である。

１．ガイダンスおよびグループ作成
２．報告内容および方法についての説明、各グループでのテーマ選び
３．報告に向けてのグループごとの作業（２－３週程度）
４．グループごとの報告①（問題の現状と原因の把握）
５．グループごとの報告②（対策の現状と政策提案）

授業はフィードバックを含め全15回行う。

[履修要件]

特になし

ILASセミナー ：公共政策論Ⅰ(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー　：公共政策論Ⅰ(2)

[成績評価の方法・観点]

授業への参加状況・参加態度（８０％）、報告内容（２０％）にもとづき、評価する。

[教科書]

使用しない

[参考書等]

（参考書）
授業中に紹介する

[授業外学修（予習・復習）等]

報告に向けて準備をおこなうだけでなく、報告後も、報告で足りなかった点、うまくいかなかった点などを反省し、改善策を考えることが望まれる。

[その他（オフィスアワー等）]

[主要授業科目（学部・学科名）]